



世界遺産富士山の  
 後世継承に向けて

研究員コラム

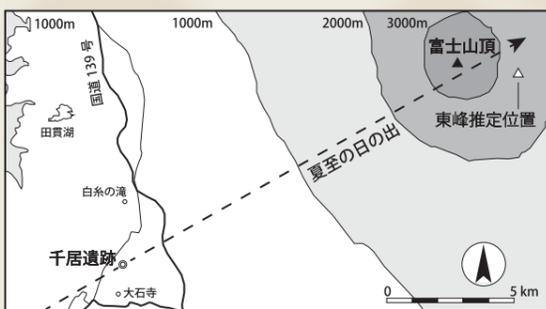
最古の富士図？

富士山信仰といえば、古代以来の修験道、そして江戸時代に始まる富士講が有名だ。しかし、はるか昔はどうだったのだろうか？

富士山麓にも、旧石器時代以来の多くの遺跡が確認されている。縄文時代には、大きな石を並べた配石遺構が現れる。富士宮市大鹿窪遺跡（一万三千年前）や千居遺跡（五千年前）などがある。これらのなかから、最近、千居遺跡で気づいたことをお伝えしよう。

富士山を臨む小高い丘陵上にある千居遺跡には、いくつもの環状の配石があるが、北側から二番目のものには、富士山の方角に大きな二つの石が配されている。右側の石は斜めに倒れているが、もとは寄り添って、二つの峰を持つ山の形に並んでいたろう。

近年の研究によれば、縄文時代には、富士山は東西に二つの頂上を持つ双子の山だった。二千九百年前に東の峰が崩壊し、一つ峰の現在の姿になったという。寄り添う二つ石は、実際の富士の姿を写した、いわば最古の富士図なのかもしれない。と、ここまで書いて、地図を改めて見て、驚くべきことに気づいた。当時遺跡から見てどの方向から日が



昇ったかを調べてみた。すると、夏至の前後の短い間、富士山の二つ峰のちょうど間から日が昇ったことがわかったのである！お示した地図上の線が、夏至に二つ峰の間から日の出が見えるラインである。千居遺跡はちょうどこの上にある。しかも、遺跡の丘は、この線上で最も眺めのいい場所だ。千居遺跡は、二つ峰の間から夏至の日の出を臨む最適地を選んで作られたと考えていいのではないか。

一年で最も日が長くなる夏至の頃は、特別な季節だ。日本やヨーロッパなど世界各地でもさまざまな祭りが行われ、大自然の生命力を取り込んで幸せと子孫繁栄を祈願する。夏至の季節、二つ峰の間から昇る日の出は、千居遺跡の縄文人にとって、共に集い富士と太陽とに祈りを捧げる格別の眺めだったに違いない。

（世界遺産センター整備課 教授 内山純蔵）

富士山世界遺産センター(仮称)建築工事の着工について



富士山世界遺産センター(仮称)は、富士山に係る包括的な保存管理の拠点とするとともに、富士山の自然、歴史・文化に加え周辺観光等の情報提供を行うなど、訪れる多くの人々のニーズに対応する拠点として、富士宮市に整備を進めています。

今年度は、映像の撮影など、展示整備を先行して行っていました。先ごろ、建築工事の業者が決定し、今年3月末には、建築工事に着手する予定です。

平成29年10月末に建物が確実に完成するよう、関係者が一丸となって整備を進めてまいります。

特集

保全状況報告書の提出

世界遺産ジャーナル  
 富士山の日

研究員コラム  
 最古の富士図？

vol.  
**30**  
 March, 2016

「富士山」の世界遺産登録と同時に、世界遺産委員会から、資産の全体構想（ヴィジョン）や来訪者管理戦略などの策定が勧告されるとともに、第40回世界遺産委員会において審査できるように、2016年（平成28年）2月1日までにユネスコ世界遺産センターに保全状況報告書を提出するよう要請されました。

保全状況報告書は、「富士山世界文化遺産協議会」において策定した「富士山―信仰の対象と芸術の源泉ヴィジョン・各種戦略」や、それらを反映し全体的な改定を行った「世界文化遺産富士山包括的保存管理計画」が附属資料として添付され、本年1月27日（パリ時間）に、日本政府からユネスコ世界遺産センターへ提出されました。

ヴィジョンでは、地域社会が世界遺産の保存・活用に参画することを通じて、25の構成資産を「ひとつの存在（entity）」及び「ひとつ（一体）の文化的景観（a cultural landscape）」として管理する方法・体系を運営可能な状態にするための方向性を示しています。

また、各種戦略では、下方斜面の巡礼路の特定、来訪者管理戦略、上方の登山道等の総合的な保全手法、情報提供戦略、経過観察指標の拡充・強化、危機管理戦略、開発の制御の各項目について、それぞれ現状及び課題を整理した上で、適切な保存管理の方向性及び具体的な対策・実施スケジュールを示しています。

本年7月に開催される第40回世界遺産委員会（トルコ・イスタンブール）における審査は、世界遺産登録後の大きな節目となりますが、最終目的ではありません。富士山の適切な保全に向けたスタートであり、報告書に記載した取り組みを確実に実施することが求められます。

世界遺産富士山の顕著な普遍的価値を確実に後世に継承するため、引き続き、国、山梨県、関係市町村等と連携を密にし、関係の皆様方の御理解・御協力を得ながら、富士山の適切な保存管理に努めてまいります。

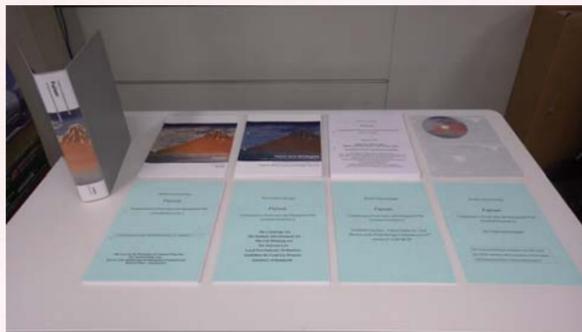
■今後のスケジュール

2016年（平成28年）5月	世界遺産委員会資料の公表
2016年（平成28年）7月10日～20日	第40回世界遺産委員会で審査

# 保全状況報告書の提出



第7回富士山世界文化遺産協議会  
（2015年（平成27年）10月23日開催）



ユネスコ世界遺産センターに提出した保全状況報告書

## 世界遺産 ジャーナル テーマ 「富士山の日」

国民の財産であり、日本のシンボルである富士山を抱く静岡県と山梨県は、全ての県民が富士山について学び、考え、想いを寄せ、富士山憲章の理念に基づき、後世に引き継ぐことを期する日として、2月23日を富士山の日と定めています。

富士山の世界遺産登録後3度目の「富士山の日」を迎えた2月23日、富士吉田市民会館ふじさんホールで「富士山の日」フェスタ2016が開催されたのを始め、この「富士山の日」を中心とした約3ヶ月の間に、富士山の日地産地消フェアや223ウォーキングなど、県内事業者の皆様等の協力により448件ものイベント・協賛事業が県内各地で実施されました。

「富士山の日」フェスタ2016では、川勝知事、吉川議長の挨拶等に引き続き、東京都古田及び三重県伊勢・志摩からのリレートークや「富士山愛」をテーマとした30秒の動画によるFUJISAN FILM FES.2016の最終審査及び結果発表、ミニコンサートなどを行い、フィナーレには「ふじ山」を参加者全員で斉唱しました。



フィナーレで「ふじ山」を斉唱  
ステージ上は右から吉川議長、川勝知事  
遠山理事長（認定NPO法人富士山世界遺産国民会議）  
後藤山梨県知事、石井山梨県議会議長

静岡・山梨両県は、「富士山の日」を重ねる度に連携を一層強め、富士山の価値の後世継承に向けた活動を推進するとともに、富士山の名に恥じることのない人づくり、地域づくりを国民運動として展開してまいります。

2月14日、浜名湖ガーデンパークでは、「富士山遊びと学びのイベント」を開催しました。富士山の日関連イベントとして、子供たちを対象に、遊びながら富士山について学んでもらうことを目的に、毎年開催しています。今年度は、司会に鉄崎幹人さん（SBSラジオパーソナリティー）を迎え、富士山や世界遺産のことを楽しく分かりやすくお話ししていただきました。富士山に関するクイズ大会も行い、子供たちが楽しく富士山に親しむイベントになりました。



2月20日、21日に富士山静岡空港では、富士山の日関連イベントを開催しました。ターミナルビル内では、「ご当地キャラクターと周辺市町PR」や、缶バッジ製作、スイーツ販売の他、「富士山について知ってこう！」と題した静岡県のコーナーも設けられ、訪れた人たちに富士登山について、写真や映像で紹介しました。

また、屋外の西側駐車場では、子供向けの遊具やご当地グルメ販売があり、家族連れなど多くの人で賑わいました。

